

No.15

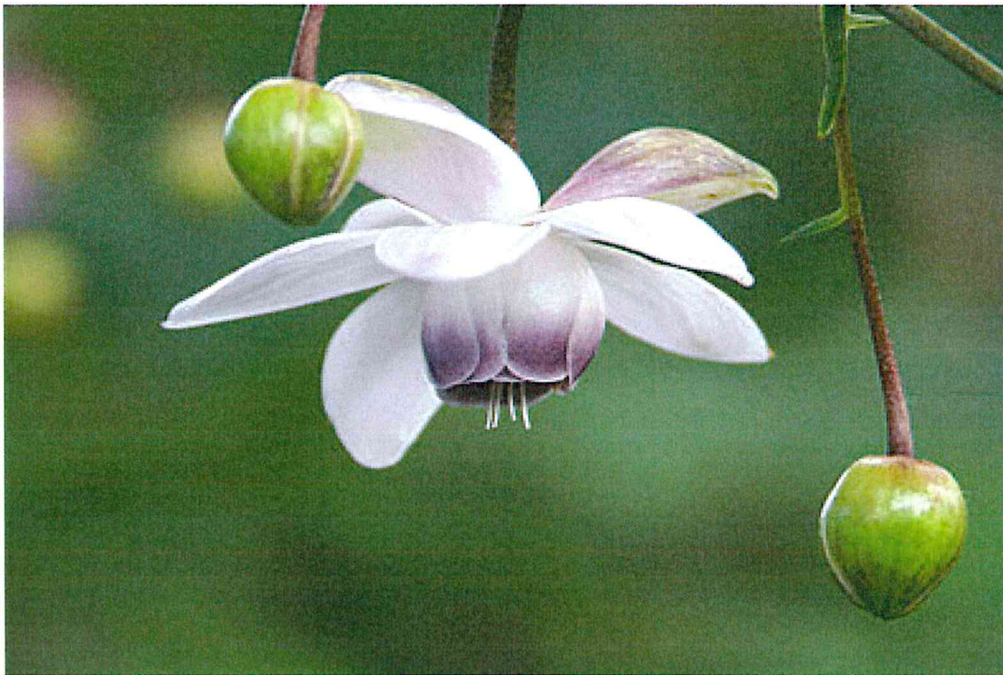
会報

**前 林 協**

**MAERINKYO**

\*\*\*\*\* 編集・発行所 \*\*\*\*\*  
 〒371-0035  
 群馬県前橋市岩神町四丁目17番3号

**前橋国有林森林整備協会**  
 TEL:027(235)5150 FAX:027(235)5147  
 URL:<http://www.maerinkyo5150.com/>  
 E-mail:[maerin5150@yahoo.co.jp](mailto:maerin5150@yahoo.co.jp)  
 \*\*\*\*\*



レンゲショウマ

◇ **記事の内容** ◇

- 前林協第17回通常総会報告
- 安全大会・・・奥久慈林業協同組合
- 安全衛生大会・・・いしかわ林業協同組合・有限会社大須賀林業・白栄林業企業組合三社合同
- 安全大会・・・磐城林業協同組合
- 合法木材供給事業者認定団体研修会
- 群馬県林業技士会第1回研修会





## 第17回

# 通 常 総 会

前林協

平成28年度第17回通常総会を6月8日  
前橋市石倉町のホテルサンダーソン「アフ  
ロ・ディー」を会場として、24会員から40  
名の出席のもと盛大に開催しました。

総会に先立ち、先の熊本地震により亡  
くなられた多くの方々に対し、哀悼の意  
を表すとともに、一日も早い復旧・復興を  
祈願し、全員で黙祷を行いました。

総会は、田黒専務理事が本総会は成立  
することを報告し、平子副会長が開会の  
辞を述べた後、高山会長が大会挨拶を行  
い、続いて漆原関東森林管理局長、沼田全  
国国有林造林生産業連絡協議会顧問から  
ご祝辞を頂戴しました。

議長には、奥久慈林業協同組合の鈴木  
副理事長を選出して議事に入りました。  
まず、第一号議案「平成27年度事業活  
動報告承認の件」、第二号議案「平成27年  
度収支決算報告承認の件」について事務  
局から説明提案があり、続いて水野代表  
監事から監査報告がなされ、審議の結果、  
全会一致で事務局原案どおり可決承認さ  
れました。

次に、第二号議案「平成28年度事業活動  
計画決定の件」、第四号議案「平成28年度  
収支予算決定の件」、第五号議案「平成28  
年度会費及び徴収方法決定の件」、第六号  
議案「預入先決定の件」、第七号議案「会

則改正の件」については、予算等にも関係す  
ることから事務局から一括提案を行い、全  
員異議なく、事務局提案どおり可決・決定さ  
れました。続いて、第八号議案「役員改選の  
件」については、役員改選期に当たることか  
ら理事10名、監事2名の選出を行い、提案し  
承認を頂いた後、理事会を行い、会長1名、  
副会長2名、専務理事1名を選任し新役員  
を決定しました。第九号議案「その他」に  
ついては、協議事項はありませんでしたが、  
平成22年から当協会発展のためご尽力され  
てきた沼田森林業協同組合の高橋文子理事  
に高山会長から感謝状と記念品が授与され  
ました。続いて、鈴木議長から「会員皆様  
のご協力によりまして、議長の大役を無事終  
了することができましたことに感謝し、議長  
を退任させて頂きます。」と挨拶して退席し、  
富沢副会長が、提案どおり可決承認を頂き  
有り難うございました。今年度も会員皆様  
方と連携を図りながら進めて参りますので、  
何卒よろしくお願い致します。」と閉会の挨拶  
を行った。

休憩を挟み、独立行政法人農林漁業信用  
基金からお越し頂いた、藤江総括調整役か  
ら協定等を締結した木材の安定的な取引に  
必要な運転資金を保証する「ウッド・サポー  
ト5000」、素材生産の安定供給・量的拡大  
を推進するため、立木の購入等素材生産に  
必要になる運転資金を保証する「ログ・プ

ログ・ツ3000」を紹介して頂きました。続  
いて、石橋関東森林整備部長から森林・林業・  
木材産業を巡る最近の情勢として、森林法の  
一部を改正する法律案の概要、森林・林業基本  
計画のポイントなどを中心に、山内森林整備  
課長からは様々な低コスト化の取組と普及に  
ついて、植栽本数、下刈回数の見直しなど、内  
海資源課長からは、国産材の安定供給システ  
ムによる販売など平成28年度関東森林管理  
局の重点取組事項などについて情報提供さ  
れ、森田間伐推進担当企画官から林業におけ  
る労働災害発生の推移、林業・木材産業におけ

る労働安全対  
策の強化、請  
負事業・立木販  
売における重  
大災害発生状  
況など労働安  
全の確保につ  
いて指導がな  
され、予定時  
間をオーバー  
して終了しま  
した。





挨拶

前橋国有林森林整備協会

会長 高山光男



本日は大変お忙しいところ全員出席頂いた中で、前林協第17回通常総会を開催することが出来ますことに対して厚くお礼申し上げます。

さて、ご案内のとおり戦後植林された森林が本格的な利用期を迎え、いよいよ国産材を活用する時代となりました。国は国産材の需要を拡大するため、CLTと呼ばれる大型木製パネル建材の普及や木質バイオマスのエネルギー利用を推進しています。

森林は間伐や伐採など適切な保全管理が不可欠であり、それに伴い発生する林地残材などを有効活用しながら林業の活性化に繋がり、新しい産業や雇用拡大が生まれ森林林業の発展や地方創生に貢献できると考えております。

ついでには、私も事業体は地域と密着した事業体であることから、いろいろな動きを的確に捉え、地域林業再生のリーダーとして益々の飛躍を期待しているところでもあります。

最後になりますが、本総会の円滑な議事進行にご協力をお願い申し上げます。簡単ではありますが開会に当たつての挨拶と致します。

祝辞

関東森林管理局

局長 漆原勝彦



改めまして、関東森林管理局の漆原でございます。一言「挨拶を申し上げます。前橋国有林森林整備協会第17回通常総会が関係者多数のご出席のもと盛大に開催されますこと心よりお慶び申し上げます。

前橋国有林森林整備協会並びに会員の皆様方におかれましては、国有林の造林・素材生産等各種事業の的確な実施を通じ、森林の公益的機能の発揮や木材の安定供給、更には地域の活性化に貢献を頂いております。東日本大震災からの復興にもご協力をいただいております。心より深く敬意を表する次第であります。改めて申し上げます。先人達のたゆまぬ努力により育まれてきた我が国の森林資源、今、まさに本格的な利用期を迎えております。このような中、国産材を巡り明るい話題が沢山出てきております。2020年東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場となります新国立競技場が木材を活用したデザインが採用されました。競技施設、選手村等の木造化・木質化は木の良さを広くアピールする絶好の機会であり、中規模、大規模の木造建築への活用も期待されるCLTや耐火部材、新たな製品、新たな技術の開発も各方面で進んで

きております。CLTにつきましては、去る3月31日及び4月1日に国土交通省からCLTを用いた建築物の一般的な設計方法等に関する告示が出され、これまでにように個別に国土交通大臣の認定を受けなくてもCLTを用いた建築が可能となったところであります。

木材・木材製品の海外への輸出や木質バイオマスでのエネルギー利用・熱利用も大いにすすんできております。我が国の木材受給率は、26年ぶりに30%台を回復するなど上昇傾向にあります。このように木材需要が景気を支えつつあります。国産材の安定供給体制を構築し林業木材産業を成長産業化していくことが求められるとともにこれを地方創生に繋げていくことが期待をされております。先月24日に閣議決定された新たな森林林業基本計画におきましては、10年後の国産材の供給量を現状の1.7倍に拡大することを目標に掲げ、新たな木材需要の創出、国産材の安定供給体制の構築をクルマの両輪として進めて行くこととされております。先に通常国会に提出されました、森林法等の一部を改正する法律におきましても、施業の集約化を特定する仕組みや国産材の広域流通をする仕組みなどを川上から川下に至る各般の措置が講じられているところであります。関東森林管理局におきましても、伐採・地帯・植付までの作業を一連の工程で行う一貫作業システムの導入、下刈と除伐の組合せ発注などを含めまして、国有林における森林施業の見直しを進める



とともに、国有林材の安定供給システム販売を拡大するなど、我が国の林業・木材産業の成長産業化にできる限り貢献して参りたいと考えております。本日お集まりの皆様方におかれましても、地域の森林・林業の発展や地方創生に、なお一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、前橋国有林森林整備協会の益々のご発展と本日お集まりの皆様方のご健勝ご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉と致します。本日はおめでとございます。

全国国有林造林生産業連絡協議会

顧問 沼田 正俊



皆様、本日は第17回  
通常総会誠におめでと  
うございます。ご紹介  
いただきました沼田で  
ございます。

森林・林業・木材産業  
全般的な話を今、漆原  
局長からお話された  
とおりであると思っております。今、林業の成長産業化に向けて皆様各地で頑張っておられますが、一つは、木材需要の拡大、二つ目は、川上から川下までの安定供給体制の確立、三つ目は、生産性の向上(低コスト化)というところが本日の「鍵」になると思っております。

ます。そういった意味で日頃からそういった活動に着実に取り組んでいらっしゃる皆様方に改めて敬意を表したいと考えております。

木材需給率は今、30%を超えましたが一番低い時は確か18%でした。その時の日本の丸太の国内生産量は大体1500万立方で昨年は、1990万立方で約3割増加している状況であります。全体的に伸びているかという濃淡がありまして、倍近くの伸びている県があつたり、殆ど変わらない県があつたり、逆に低くなっている県があるなど色々な条件があります。結果として「やれば出来る」ということではないでしょうか。これからも色々な努力を積み重ねて行けば、明るい未来があり得るということを示していることだと思います。

今、CLT、耐火集成材、バイオマス、木材の輸出などこれまでと違った動きが出てきておりますし、いろんな事業者の方々もそういった動きを上手く掴めば、また、更に飛躍できるということもあると思います。色々な仕事をして行く中で、安全の問題は基本だということに思っておりますので、いろいろな点を含め、今後活動をして頂ければと思います。全造生協の高山会長を筆頭に、色々な情報提供に努めて参りたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいということと併せまして、皆様方の会社の益々のご発展とご参会の皆様方のご健勝を祈念申し上げます。ご挨拶に替えさせて頂きたいと思ひます。

本日は誠に御おめでとございます。

新役員

会長	高山 光男
副会長	平子 作麿
理事	富沢 正男
理事	大須賀 浅吉
理事	菊地 正人
理事	監物 幸夫
理事	堀川 正一郎
理事	相川 清治
理事	阿部 功
専務理事	目黒 文彦
代表理事	水野 武雄
監事	山崎 義哉





見えますか？

あなたのまわりの

見えない危険

みんなで見つける

安全管理

奥久慈林業協同組合 安全大会



奥久慈林業協同組合（菊地正人理事長）の平成28年度安全大会が6月29日午前10時から富家で午前10時から林業関係者ら約百十名出席し、安全講話の聴講やスローガンの確認などに努めました。

菊地正人理事長が「皆さんの安全に対する意識の高まりや安全対策の徹底で昨年度も災害ゼロを達成し、七百四十三日連続無災害を達成することができた。この無災害時間をさらにのばして行こう」と挨拶した。坂井棚倉森林管理署長、高山前橋国有林森林整備協会会長、加藤福島県南農林事務所長らが来賓のあいさつを行った。安全講話は白河労働基準監督署の千葉産業安全専門官が「林業における労働災害の防止・現況について」を前橋国有林森林整備協会黒専務理事が「夏場の安全衛生管理について」を棚倉森林管理署の坂井署長と山浦総括森林整備官が「労働安全の確保について」それぞれ安全講話を行った。平成28年度の安全衛生管理実施計画及び安全対策については、安全衛生部会委員の鈴木俊裕さんが説明した。

安全衛生部会委員による、安全標語入選作の発表、関東森林管理局長メッセージの伝達、安全スローガンの確認、安全の誓い、労働災害防止・安全作業の誓い・ゼロ災コールを行い安全意識を高めました。安全標語は厳正な審査の結果、12点が入選作として発表され、入選者それぞれに菊地理事長から記念品が贈呈された。

◎ 気を抜くな 毎日変わる 危険箇所  
〔ススキ木材・衛藤雄一〕

◎ 見直そう 日々の作業の 危険予知  
〔田部林業・鈴木 篤〕

◎ 気を配れ 小さな変化 事故の元  
〔陣野林業・鈴木 誠〕

◎ 一呼吸 無理と焦りは 事故を呼ぶ  
〔真名畑林業・松本吉幸〕

◎ ヒヤリで済んだ あれの教訓 今日も生かそう 危険予知  
〔ススキ木材・津田泰徳〕

◎ 初心に戻って 慎重に みんなで築こう ゼロ災害  
〔ウツド福生・山涼平〕

◎ 迷わず掛ける一言が 明日へ繋がる 安全活動  
〔本郷林業・森田俊栄〕

◎ 慣れた作業 油断の隙間に 潜む危険  
〔田部林業・金原秀幸〕

◎ 上手にやるより 確実に早くやる より 安全に  
〔陣野林業・中村慶平〕

◎ まあいいか！ こんな気持ちで 事故のもと  
〔東白林業・岩崎由紀子〕

◎ 慣れた作業に 忍び 危険 指差呼称で 再確認  
〔真名畑林業・坂上弘晃〕

◎ 「気をつけろ」 注意し合える 明るい職場 一人ひとりが 皆主役  
〔ススキ木材・西牧博司〕





### 安全衛生大会

いしかわ林業協同組合  
有限会社 大須賀林業  
白栄林業企業用組合



全国安全週間を前に6月29日、いしかわ林業協同組合(理事長 水野武雄)、有限会社大須賀林業(代表取締役 大須賀浅吉)、白栄林業企業組合(理事長 満山君男)では、毎年恒例となっている三社合同の安全衛生大会を母畑温泉「八幡屋」において、関係者五十数名が出席して開催した。

主催者を代表して、水野理事長は「暑い中下刈作業の最中であり体調に十分気をつけて頂きたい、これまでの無災害の継続と質の高い作業に対する感謝とともに、この一年も無災害を継続しよう」とあいさつを行った。

続いて、各社の優良従業員表彰が行われ、有限会社水野林業水野子三氏、有限会社鈴木商事水野喜一氏、有限会社大須賀林業熊田孝一氏、白栄林業企業組合満山克美氏にそれぞれに表彰状と記念品が贈呈された。来賓として、五十嵐福島森林管理署白河支署長が「安全災害の事例を含めた安全対策について」、荒須賀川労働基準監督署長が「熱中症に対する安全対策について」の安全衛生講話を行い、高山前橋国有林森林整備協会長が来賓のあいさつを行った。

次に、有限会社大須賀林業に勤務する3名の緑の雇用研修生が、林業作業に対しての意気込みなどを力強く宣言を行った。休憩を挟み、「林業におけるリスクアセスメントの進め方」を紹介するDVDを視聴し各社ごとに分かれて、作業の危険要因を洗い出し、対策を考え代表者が発表を行い、荒須賀川労働基準監督署長が詳しく指導を行いました。

リスクアセスメントの注意点は、①危険要因の洗い出しは多く出すこと。②危険の見積・評価は厳しくみること。③危険減に対する対策をきちんと行うこと。など指導され参加者一同充実した時間となった。

毎年恒例となっている安全標語については、応募総数61点があり、参加者全員による投票によりツ次の3点が入選し、受賞者に記念品が贈呈された。安全の誓い、ゼロ災宣言を全員で声高々と行い、今年度の無事故を誓い合い安全衛生大会を終了した。〔真岡〕

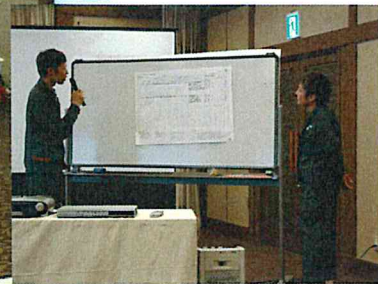
1位 安全標語の入選作  
気を抜くな 帰るまでが仕事です  
〔大須賀林業・佐久間正樹〕

2位 忘れんな 基本動作と危険予知  
〔水野林業・鈴木尚晃〕

3位 見逃すな ヒヤリハットの思いと反省を 今後の安全作業になることを  
〔白栄林業・鈴木喜一〕

### ◎ ゼロ災宣言

### ① 各社の発表





## 磐城林業協同組合

## 安全大会



全国安全週間となった7月4日、磐城林業協同組合（平子作磨理事長）の平成28年度安全大会がいわき市常磐藤原のスパリゾートハワイアンズコンベンションホールにおいて、傘

下組合員十七社の従業員と林業関係者ら約二百人が出席して「見えますか？ あなたのまわりの見えない危険 みんなで見つける 安全管理」の全国安全週間スローガンの下、盛大に開催された。

平子理事長は、労働災害を防止するためには、「トップから安全衛生の担当者、労働者までの事業場の全員が現場を確認し、機械設備の安全基準や作業手順などの基本的なルールを守ることに加え、事業者から労働者一人ひとりまでの安全に対する意識や危険感受性を高めることにより、労働者の安全を確保し、労働災害ゼロを目指していく必要があると思う。そして、今日の安全大会を機に改めて皆さんで考え、引き続き危険ゼロを目指して安全第一で作業に取り組んで頂きたい。」と挨拶を行った。

来賓として、吉野正芳衆議院議員、小林重善磐城森林管理署長、森口康弘いわき農林事務所長が来賓を代表して祝辞を贈り、田村美登理いわき労働基準監督署副所長が「林業の安全」と題し、林業における死傷災害の推移や林業における休業災害の概要、チェーンソーを用いた安全対策等について講演を行った。

続いて、生田目造林安全委員長、大館伐出委員長から、現在下刈作業の最盛期ですが、これからさらに気温が高くなり、厳しい条件での作業が続きますので、日頃の体調管理をしっかりと行い、作業中はこまめに水分・塩分を補給するなどの熱中症対策をお願いいたします。また、各種作業に当たっては、基本的事項を守って今年度も「危険ゼロ」を目指しましょうと各事業実行に当たっての留意事項等々が再確認された。

交通安全講話は、いわき中央警察署交通第一課の吉田警部補が、いわき中央警察署管内における交通事故多発地点について、路線では国道6号、事故の種類では交差点付近においての追突事故が約80%と多発している。また、飲酒運転も多くなっていることからDVDを用いた飲酒運転の代償が、こんなに大きいことやシートベルトの重要性などについて講話された。



最後に出席者を代表して、緑の研修生として活躍している常磐林業株式会社の中村さんが労働災害防止・安全作業の誓いを読み上げて安全大会が閉会となった。



### 合法木材供給事業者認定団体研修会

全国的に猛暑となった7月7日、江東区新木場の「東京木材会館」に全国から認定された一五二団体から一五四名が集結し、合法木材供給事業者としての認定団体研修会が開催され、参加してきました。

最初に一般社団法人全国木材組合連合会の島田副会長が主催者を代表して挨拶を行い、来賓として稲本林野庁木材貿易対策室長が挨拶を行った。

続いて、「合法木材供給の仕組みと現状」と題して、一般社団法人全国木材組合連合会の森田常務理事から①なぜ違法伐採問題に取り組むか ②合法木材供給事業の取組の概要 ③林野庁合法木材ガイドラインと分別管理・文書管理責任者の役割 ④違法伐採対策を巡る最近の動き ⑤新たな市場への挑戦 ⑥そして、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて等々について聴講した。

次に稲本木材貿易対策室長から5月13日に成立し、5月20日に公布された「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」(クリーンウッド法)の経緯と今後の方向について説明がなされた。この法律の施行日は公布日から起算して1年を経過した日となることから平成29年5月20日法律施行となります。施行後は、合法木材の推進に向けて、国内で流通する木材・木材製品はすべて合法性のチェックは木材関連業者が行うよう努力義務を課すことになるようですが、まだまだ関係省庁間での調整が必要で



あり、夏休み中にはもう少し詳細に会員の皆様に情報提供できるものと思います。また、各県でも説明会などを計画していることもあり、情報入手されても結構です。

### 合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律

<b>定義</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木材等：木材及び木材を加工し、又は主たる原料として製造した家具、紙等の物品であって主務省令で定めるもの(リサイクル品を除く。)[2条1項]</li> <li>・合法伐採木材等：我が国又は原産国の法令に適合して伐採された樹木を材料とする木材及び当該木材を加工し、又は主たる原料として製造した家具、紙等の物品であって主務省令で定めるもの(リサイクル品を除く。)[2条2項]</li> </ul>
<b>国</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎流通及び利用の促進に関する基本方針の策定[3条]</li> </ul>
<b>主務大臣</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木材関連事業者の判断の基準となるべき事項を定める[6条]。</li> <li>・上記事項を助業して、指導及び助言を行う[7条]。</li> <li>・木材関連事業者に対する報告徴収及び立入検査を行う[33条]。</li> </ul>
<b>事業者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎事業者の責務→木材等を利用するに当たっては、合法伐採木材等を利用するよう努めなければならない[5条]。</li> </ul>
<b>木材関連事業者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>…木材等の製造、加工、輸入、輸出又は販売(消費者に対する販売を除く。)をする事業、木材を使用して建築物その他の工作物の建築又は建設をする事業その他木材等を利用する事業であって主務省令で定めるものを行う者[2条3項]</li> </ul>
<b>登録木材関連事業者</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合法伐採木材等の利用を確保するための措置を適切かつ確実に講ずる木材関連事業者は、登録により「登録木材関連事業者」という名称を用いることができる[8条、13条1項]。</li> <li>※登録を受けた者以外が当該名称又はこれと紛らわしい名称を用いた場合は罰則あり[13条2項、37条]。</li> </ul>
<b>申請</b>	<b>登録</b>
<b>登録実施機関[5条]</b>	

※ 施行日：公布の日から起算して1年を経過した日



### 認定CPD分野 森林業 技術士会 研修会

群馬県林業技術士会（会長川島松雅巳）は7月13日、森林分野CPD認定を受けた第1回目の現地研修会を開催した。

午後10時川場村道の駅「田園プラザ」かわばしに集合した会員は、最初の研修地である川場村木材コンビナート製材施設に移動して村職員から建設の概要について説明を受けました。

川場村では森林資源の地産地消をめざし、地域の森林から発生する間伐材を活用した木材製品の加工・販売・加工後の端材を燃料とするバイオマス発電等を推進する木材コンビナート事業に取り組んで第1期事業として本年4月から製材施設の運用を開始している。端材を活用する木質バイオマス発電は45kwを来年4月からの稼働を計画し、隣接してその熱を利用した農業温室（パイプハウス）も建設中である。この施設から将来的には、リジナル商品を開発・販売して行きたいとのことでした。



午後は、地域の森林文化にも深くかわる巨樹について、利根地方に残されている薄根の大桑（ヤマガワ）では日本一の大きさで日本のクワの三銘木、根元周囲約5.7m、樹高約13m、枝張り約18m、西に約18m、南北約17m、樹齢1500年と推定されています。



発知のヒガンザクラ（この樹は周囲を田畑に囲まれ、付近のどこからも見ることが出来「苗代桜」と呼ばれて、この花が咲くと苗代をつくり始める目安として地元の人々から親しまれてきた。樹高15m、幹周5.1m、樹齢400年を巡りその由来等について樹木医から教示して頂き、雨天にも拘わらず大変有意義な一日となりました。





### ▽△協会の主な動き▽△

5月16日 磐城林業協同組合第18回通常総会（いわき市）  
 5月19日 全造生協第17回定期総会（東京都）  
 5月24日 甘楽林業協業組合通常総会（下仁田町）  
 5月26日 前堂懇研修会（前橋市）  
 5月28日 沼田森林業協同組合第43回通常総会（沼田市）  
 5月30日 奥久慈林業協同組合第16回通常総会（棚倉町）  
 第70回群馬県植樹祭（川場村）  
 大間々林業協同組合第34回通常総会（みどり市）

6月2日 前林協第1回理事会（前橋市）  
 6月8日 群馬県林業技士会通常総会（前橋市）  
 6月21日 前林協第17回通常総会（前橋市）  
 6月29日 社会保険事務講習会（伊勢崎市）  
 奥久慈林業協同組合安全大会（棚倉町）  
 いしかわ林業協同組合・有限会社大須賀林業・  
 白栄林業企業組合合同安全衛生大会（石川町）  
 7月4日 磐城林業協同組合安全大会（いわき市）  
 7月13日 合法木材認定団体研修会（東京都）  
 群馬県林業技士会CPD研修会（川場村）

### ▽△今後の予定▽△

10月未定 全造生協理事会（東京都）  
 前林協第2回理事会

### ◇◇人事異動◇◇

▽代表者の変更  
 沼田森林業協同組合 理事長 山崎 義 哉  
 △安全推進員の委嘱  
 有限会社 榎原愛林 取締役 堀川 正一郎

### ◇◇編集後記◇◇

梅雨により湿度の高い日が続き、体力や抵抗力が低下するほか注意力も散漫になる季節です。  
 梅雨が明けると夏本番を迎え、山での下刈り作業も本格的に始まりますが、蜂の行動も活発になり、蜂刺されに注意が必要となります。  
 また、高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻して発症する熱中症にも注意が必要となります。  
 自身の安全作業に留意しつつ、同僚の疲労度にも気を配りながら夏場の安全衛生管理をしっかりと行い、厳しい夏場を乗り切って頂きたいと思えます。

